

1 市の概要

人口	468,380 人
保護率	1.37 %



3 実施方法について

実施方法	直営＋委託（単年度契約／プロポーザル無）
事業費	11,319千円（平成30年度）
理由（委託）	○ボランティアの募集・安定的な確保に関するイベントを企画・実施しており、子どものニーズに応じてそこにも参加できるため。
事業概要	<p>【訪問型・直営】 （家庭教育支援員3名／家庭訪問員8名／教育アドバイザー1名）</p> <p>○家庭訪問により、不登校の子ども、保護者の相談対応、個々の課題解決に必要な助言を行う。併せて専門的知識や経験を持つ教育アドバイザーを配置し、子どもや保護者の心理的支援を強化するとともに、教育部門との調整を行う。</p> <p>【集合型・委託】（H30年度ボランティア参加延べ人数：900人）</p> <p>○居場所づくり、高校進学等を目指した個別の学習指導を行う。愛称は「あつまローズ」。</p>
その他特記事項	○アウトリーチ担当者会議（※）等を通じて関係部署・機関との連携を深める。教育、ひとり親支援、青少年育成等の関連事業との一体的な取り組み。

※事例検討を通じ、関係部署同士の相互理解を深めることを目的とした会議。福祉や教育といった部門の壁をとり払い、それぞれの担当者が現場で得た情報や、培ったノウハウを共有する。定期的に開催し、状況に応じた支援方法を検討することで、効果的な支援に結びつける。また、関係部署で実施している事業についても、お互いに理解を深める場となっている。

2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当（件）	一月当たり	9.9
プラン作成件数人口10万人当（件）	一月当たり	1.5
就労支援対象者数人口10万人当（件）	一月当たり	0.7
就労・増収率（%）		71.4

4 事業実績（H30年度）

利用者	小学生	中学生	高校生	計
生活保護世帯	64人	170人	87人	321人
生活困窮世帯	237人	134人	66人	437人

5 事業実施のポイント ～アウトリーチ・多職種連携による学習支援～

Point

支援員が自宅や学校へ直接訪問支援＋担当部署を超えた横断的支援

◆家庭教育支援員

- ・直営実施（嘱託職員を雇用）
- ・学習に課題のある子どもの家庭を訪問し、保護者からの教育相談を受けたり、学習支援を行う。
- ・学校との連携による支援も実施。
- ・家庭訪問員・教育アドバイザーとの協働により、子どもや家庭に関する複雑多様な課題に対応。

◆家庭訪問員

- ・直営実施（登録制）
- ・不登校等の子どもの家庭を訪問し、直接自宅から登校支援や学習支援を行う。

◆教育アドバイザー

- ・直営実施（嘱託職員を雇用）
- ・専門的見地から心理的助言を行う。福祉と教育部門の調整役も担う。

◆子どもの居場所「あつまローズ」

- ・福山市社会福祉協議会に委託。
- ・社会人や学生ボランティアが参加しマンツーマンでの学習支援を基本とする。
- ・学力向上よりも、「安心できる居場所づくり」を意識し、その環境の中で「基礎学力の定着」を目指す。



6 取り組んで良かったこと

- 家庭教育支援員や家庭訪問員が直接家庭に出向いて支援することにより、家族を含めた包括的な支援につながっている。
- 学習に集中して取り組める時間がのびてきたり、高校のことや将来の仕事について、相談したり話題にする子どもも出てきた。
- 不登校状態や不登校気味の子どもも、学校への登校を考えたり、努力する姿勢が見られるようになった。